ゴミもあり味気ない。早々と黒戸尾根を下り、その日の内に三島に帰った。

（文中敬称略）

（81年8月　日発行機関誌「くろゆり」第7号に収録）

解説

第8期冬山合宿

鹿島槍ケ岳

2889m

後藤　隆徳

南アの冬山総仕上げとして取組まれたが若手の退会、杉澤のケガ（ギックリ腰）などで最小人数パーティーとなった。しかし、三千m級の山2峰を2人で縦走したのは評価できる内容であった。

●鹿島山荘～爺ケ岳東尾根～爺ケ岳～鹿島槍ケ岳～鹿島山荘

▽80年12月29日～81年1月1日

▽CL後藤隆徳（33）SL竹端節次（42）食料毛利哲也（47）食料杉澤康秀（31）気象土屋友茂（30）会計霧木廣幸（31）装備村松正広（20）装備土佐　昇（33）医療小沢恵子（23）

『とりくみ』

南アルプスの課題は昨年で全て終了しいよいよ本年より待望の北アルプス後立山連峰の3ケ年計画、すなわち鹿島槍ケ岳、白馬岳、五竜岳が始まった。

1、80年3月総会にて決定。

2、5月2日～5日に後藤、毛利、竹端、土佐、村松、伊藤（鈴木）真理子は爺ケ竹東尾根～鹿島槍を偵察した。

3、10月11日～12日に後藤、竹端、毛利、杉澤康、露木、今井芳、村松は東尾根2千m付近に荷上げした。

4、11月29日～30日に富士山吉田大沢で後藤、村松、露木、土佐、小沢は雪上訓練を行った。

5、12月4日～5日に富士山5合目付近で毛利、杉山達、土佐、土屋は雪上訓練を行った。

12月29日（晴）

〈タイム〉三島8：05～爺ケ岳スキー場17：45～出発18：30～鹿島山荘19：10（泊）

昨年毛利と仙丈岳東尾根を登った時、いつでもそうだが翌年の冬山についていろいろと話合った。話題は昨年あたりからいわれている北アルプスでの冬山合宿だった。劣山の冬山も弘法小屋尾根～白峰三山、鋸岳～甲斐駒、聖岳東尾根～茶臼岳、仙丈岳東尾根～甲斐駒と確実に力をつけてきている。

会の平均年令、機運等考えると来年は北アで冬山合宿をやる最良の機会と思えた。私と毛利の意見は合致し、来年は北アで冬山を実施しようと誓い合った。

年末の山は69年来の大雪で荒れに荒れすでに遭難者が続出していた。昨夜の天気図も大陸からマイナス45度という寒気団が南下してきた。2～3日すれば北アはまた大雪になるだろう。家族は心配して「よせばいいのに」といった。山に不安材料が多かった。だが私はその割には不思議と心に動揺もなく、気持ちは充実していた。北アの冬山という新鮮さもあったが、何よりも8名の大勢の仲間と合宿が出来ることがそうさせていた。

三島駅発は7時半だったが竹端、土佐が遅れ8時5分になる。使用車は毛利のブルーバードと私が沼津の鈴木氏に借りた人形劇団の「ぶくぶく号」だった。今年はこの車を良く借りた。見送りは今井芳、杉澤好らが来てくれた。車が池田町を過ぎ大町に入ると雪は一段と多くなり約1m。近くのガソリンスタンドの屋根が雪の重みで落ち、久し振りの大雪を物語っていた。それに道路の除雪が充分でないので対向車が来ると交換に苦労し時間も掛かった。中花見を過ぎ、鹿島川を渡り、爺ケ岳スキー場に来るともう回りは暗くなった。しかも、この辺りの雪は全く締ってなく車はしばしば雪の中に入ってしまった。そのたびに私達は車の後押しをしなければならなかった。

スキー場の雪は約2mでその先は除雪してなかった。暗い中、荷物を整理し分担しランプをつけて出発。鹿島山荘には小1時間で着く。明日のルートを偵察すると、深い雪のなかハッキリとトレースはついていた。山荘の人の話だとすでに数パーティ入山しているとのことだった。山荘に戻り全員で囲炉裏を囲んで軽い食事をとり酒を飲む。竹端がその昔鹿島槍で遭難しここまで走って連絡に来たとか、山荘のバアさんの話などを聞いた。最後に明日の打合せをして休む。フトンが冷たくて快適でなかった。